二〇一七年度　大阪府公立高校入試問題（C問題）

五〇分
九〇点

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（注）答えの字数が指定されている問題は、句読点や「　」などの符号も一字に数えなさい。

日常生活からふっと浮かび上がるようにして、完結した遊びの世界がしつらえられる。それが楽しいものに感じられる。その楽しさとはどんな楽しさだろうか。

日常生活のしがらみから解放された自由さが楽しみを生む基本条件になっている。それは確かだ。が、それはあくまで条件であって、楽しみの内実はそれから先にある。日常性を抜けだした自由さのなかで、初めと終わりのある完結した行動として展開するのが遊びだとして、その遊びの世界の楽しさとはなにか。

自分が遊んでいるときの心理を振りかえってみても、他人の遊ぶすがたを外からながめても、遊びのなかで人は興奮した状態にある。みずから緊張状態を作りだそうとし、作りだされた緊張状態にみずから溶けこもうとしている。そういう①気分の昂揚（こうよう）が遊びの基本要素の一つだ。そして、気分の昂揚は完結した一世界を主体的に作りだす創造性と強く結びついている。

日常世界にしっかりとはめこまれた仕事や労働は、外からやってくるさまざまな強制や要請を受けいれざるをえず、また、作業そのものの要求する合理性や効率性に縛られて、自由な創造行為とははるかに遠いところにある。が、遊びはそうではない。日常生活を抜けだしている分だけ社会からの強制が働かないし、物を生産したりサービスを提供したり損得を計算したりする行為ではないから、合理性や効率性に縛られることも少ない。どうふるまうかは各自の自由な主体性にゆだねられている部分が大きい。ということは、遊びがどう展開するかはきわめて不確定だということで、遊びにおける気分の昂揚は、不確定の状況に身を置く不安と、自他の創意と工夫によって不確定を確定へともたらす主体性の発現とがからまり合って生みだされるのだ。もともと気分の昂揚が予想され期待され、その予想と期待に応じるように気分が昂揚すると、遊びの世界は日常世界とはちがう華やかさを帯びてくる。それが遊びの楽しさだ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

そうした楽しさは遊ぶ人びとの気分の昂揚によってもたらされたものだが、気分の昂揚がひたすら感情的に追求されると、遊びは無秩序な乱痴気騒ぎになって、それでは楽しみが持続しない。遊びは一回ごとに完結するもので、いつまでも楽しさが持続することはないが、［②］。遊びに、それなりのルールや作法や仕掛けや段取りが存在するのは、楽しみの持続を願う多くの人びとの、無意識の、あるいは意識的な、知恵のたまものなのだ。ルールや作法や仕掛けや段取りは、なによりも、遊びを楽しいものにするためのものだ。

その点で、③遊びのうちにある秩序は仕事の秩序とは質を異にする。

仕事の秩序は合理性と効率性を基本とする秩序だ。どれだけ短い時間に、どれだけ人手を少なくして、どれだけ多くの物を作れるか。どの部署に、どんな人物を、どんな規模で配置するか。外からの注文や要望や苦情にだれが、どう対応し、内部の動きにそれをどう反映させるか。……そういった配慮のもとに仕事の秩序――部局の設置、責任の分担、人員の配置、生産の規模、労務管理、支社との連携、関連会社との協力体制、等々――が組み立てられ、情勢の変化に応じて秩序はさまざまに手直しされる。組み立てにも手直しにも合理性と効率性への配慮が欠かせない。

そこが遊びの秩序は決定的にちがう。合理性と効率性への配慮はゼロではないが、それが秩序の基本ではない。どう気分を昂揚させ興奮の波を作るか。いいかえれば、どう遊びを楽しくするか。そうした配慮が秩序の――ルールや作法や仕掛けや段取りなどの――基本だ。前の遊びとつながらなくてもよい。遊びの始まる前にあった出来事ともつながらなくてよい。遊びの後に来る出来事ともつながらなくていいし、後続の遊びともつながらなくてよい。遊びが始まって終わるまでの流れが、緊張と弛緩（しかん）、動と静、リズムとハーモニーを備えた充実した時間をなし、そこで楽しい気分の昂揚が味わえることがなにより大切なのだ。遊びの秩序は、まずもって、そういう充実と楽しさを作りだし維持するためにある。秩序の作りかたという点から見ても、遊びは、衣食住という暮らしの土台からはやや浮いたところにあり、生活の直接の必要や、生活に直接に役立つ有用性や有益性を逸脱した営みだということができる。必要や有用性や有益性を逸脱しているからこそ、楽しみを純粋にそれとして追求することが可能なのだ。

（長谷川　宏「高校生のための哲学入門」より）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

1　①気分の昂揚とあるが、遊びのなかで気分の昂揚がどのようにして生まれるかについて、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。[　]に入る内容を、本文中のことばを使って二十五字程度で書きなさい。

社会から強制されることが少ない遊びのなかでは、各自の行動がそれぞれの意志や判断に任されていることが多く、[　]を感じた人びとが、主体的に遊びの流れを作りだそうとするとき、気分の昂揚が生まれる。

2　次のうち、[②]に入れるのに最も適しているることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　一回の遊びの時間内では楽しさが持続するのが望ましい
イ　興奮が高まれば高まるほど遊びの楽しさは長く持続する
ウ　遊びの後の出来事にも楽しさは持続しなければならない
エ　日常生活のルールがあることで遊びの楽しさが持続する

ア	イ	ウ	エ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

3　③遊びのうちにある秩序は仕事の秩序とは質を異にするとあるが、本文中で筆者は、仕事の秩序と遊びの秩序はそれぞれ何を基本とすると述べているか。本文中のことばを使って**五十五字程度**で書きなさい。

4　遊びの楽しさについて本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。［a］、［b］に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、［a］は**十三字**、［b］は**十六字**で抜き出すこと。

遊びのなかで人びとの気分が昂揚すると、遊びの世界に［a］が生じ、それが遊びの楽しさである。遊びはただちに生活の役に立つ行為ではないが、それゆえに［b］ことができる。

a

b

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二

次は、筆者が初冬に旅をしている途中、梅が咲いているのを見た後の様子を記した文章である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

今夜(こよひ)は、香河(かがは)とかや申す所にとどまりぬ。竹の一(ひと)むら侍(はべ)る見越しに、島の近々と見えたるを、この里人に問へば、梅(うめ)が崎(さき)といふ。

立ちかへり春や来(き)ぬらむ梅が崎散りにし花と見ゆる浪(なみ)かな　——Ⓐ

まことや、この月は少なき春といふなるもことわりと覚えて、山梨(やまなし)・李(すもも)などまでも咲きたり。

（注）香河＝現在の山口市嘉川(かがわ)。
梅が崎＝現在の山口市江崎(えざき)の一部にあたる地域。
少なき春＝小春のこと。「小春」は、春のように暖かな初冬をさすことば。

1　「道理にかなったこと」という内容を表すことばを、本文中から抜き出しなさい。

2　次のうち、本文中で述べられている筆者の状況と合うものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　香河をはさんで竹林から梅が崎をながめている。
イ　香河をはさんで梅が崎から竹林をながめている。
ウ　竹林をはさんで香河から梅が崎をながめている。
エ　梅が崎をはさんで香河から竹林をながめている。

ア　イ　ウ　エ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

3　本文中のⒶで示した歌に用いられている比喩について説明した次の文の［a］、［b］に入る内容を、それぞれ現代のことばで書きなさい。

［a］を［b］にたとえている。

a ［　　］

b ［　　］

4　本文中で述べられている筆者の心情を次のようにまとめた。［　］に入る内容を本文中から読み取って、現代のことばで**十字程度**で書きなさい。

旅の途中で梅が咲いているのを見た筆者は、島の名を聞き、春が再びかえってきたのだろうかという思いを歌にして、［　］様子も合わせて、今月が「少なき春」であることを実感していた。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

三

次の(1)～(5)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、楷書(かいしょ)で、大きくていねいに書くこと。

(1) 寒さがキビしくなる。

(2) 料理を皿にモりつける。

(3) 文化財をホゴする。

(4) 弟のかぜが治るまでカンビョウする。

(5) ウチュウには無数の銀河がある。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
□しく	□り	□□	□□	□□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

だいぶ以前に、農学専門のある先生から興味深い話を聞いたことがある。

その先生が留学していた頃、アメリカで人間の動物観を研究するというプロジェクトがあった。そのやり方は、例えば「一番美しい動物は何か」といったような質問を並べてアンケート調査を重ね、その答えが年齢、性別、職業、宗教、民族などでどのように違うか調べるのだという。

このことを聞いて、それは面白そうだから日本でも同じような調査をしようという話になった。うまく行けば日米比較文化論になるかもしれない。というわけでさっそく試みたのだが、①これがどうもうまく行かない。アメリカでなら「一番美しい動物は」ときけば、すぐ「馬」とか「ライオン」とか、何か答えが返って来る。ところが同じ質問を日本人にすると、「さあ、何だろうな」とはなはだ歯切れが悪い。そこを無理に、何でも一番美しいと思うものを挙げてほしいと言うと、「そうだなあ、夕焼けの空に小鳥たちがぱあっと飛び立っているところかな」といったような答えになる。「これでは比較は無理だから、結局㋐諦めました」とその先生は苦笑していた。

私がこの話を聞いて興味深いと思ったのは、それが動物観の差異以上に、日本人とアメリカ人の美意識の違いをよく示すものと思われたからである。

アメリカも含めて、西欧世界においては、古代ギリシャ以来、「美」はある明確な秩序を持ったもののなかに表現されるという考え方が強い。その秩序とは、左右相称性であったり、部分と全体との比例関係であったり、あるいは基本的な㋑幾何学形態との類縁性など、内容はさまざまであるが、いずれにしても客観的な原理に基づく秩序が美を生み出すという点においては一貫している。逆に言えば、そのような原理に基づいて作品を制作すれば、それは「美」を表現したものとなる。

典型的な例は、現在でもしばしば話題となる八頭身の美学であろう。人間の頭部と身長が一対八の比例関係にあるとき最も美しいという考え方は、紀元前四世紀のギリシャにおいて成立した美の原理である。ギリシャ人たちは、このような原理を「カノン（規準）」と呼んだ。「カノン」の中身は場合によっては変わり得る。現に紀元前五世紀においては、優美な八頭身よりも荘重な七頭身が規準とされた。だが七頭身にせよ八頭身にせよ、何かある原理が美を生み出すという思想は変わらない。ギリシャ彫刻の持つ魅力は、この美学に由来する

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

ところが大きい。

もっとも、この時期の彫刻作品はほとんど失われてしまって残っていない。残されたのは大部分ローマ時代のコピーである。しかしばしば不完全なそれらの模刻作品を通して、かなりの程度まで原作の姿をうかがうことができるのは、美の原理である「カノン」がそこに実現されているからにほかならない。原理に基づいて制作されている以上、彫刻作品そのものがまさしく「美」を表すものとなるのである。

だがこのような実体物として美を捉えるという考え方は、日本人の美意識のなかではそれほど大きな場所を占めているようには思われない。日本人は、遠い昔から、何が美であるかということよりも、むしろどのような場合に美が生まれるかということにその感性を働かせて来たようである。それは「実体の美」に対して、「状況の美」とでも呼んだらよいであろうか。

例えば、「古池や蛙(かわず)飛びこむ水の音」という一句は、「古池」や「蛙」が美しいと言っているわけではなく、もちろん「水の音」が妙音だと主張しているのでもない。ただ古い池に蛙が飛びこんだその一瞬、そこに生じる緊張感を孕(はら)んだ深い㋒静寂の世界に芭蕉(ばしょう)はそれまでにない新しい美を見出(みいだ)した。そこには何の実体物もなく、あるのはただ状況だけなのである。

日本人のこのような美意識を最もよく示す例の一つは、「春は曙(あけぼの)、やうやうしろくなりゆく山ぎはすこしあかりて……」という文章で知られる『枕草子(まくらのそうし)』冒頭の段であろう。これは春夏秋冬それぞれの季節の最も美しい姿を鋭敏な感覚で捉えた、いわば模範的な「状況の美」の世界である。すなわち春ならば夜明け、夏は夜、そして秋は夕暮というわけだが、その秋について、清少納言(せいしょうなごん)は次のように述べている。

秋は夕暮。夕日のさして山の端(は)いと近うなりたるに、烏(からす)の寝どころへ行くとて、三つ四つ二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁(かり)などのつらねたるがいとちひさく見ゆるは、いとをかし……。

これはまさしく「夕焼けの空に小鳥たちがぱあっと飛び立っているところ」というあの現代人の美意識にそのままつながる感覚と言ってよいであろう。日本人の感性は、千年の時を隔ててもなお変わらずに生き続けている。

（高階秀爾「日本人にとって美しさとは何か」より）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1　本文中の次の漢字の読み方を書きなさい。

㋐ 諦め　［　　　］め

㋑ 幾何学　［　　　］

㋒ 静寂　［　　　］

2　①これがどうもうまく行かないとあるが、本文中で筆者は、美しい動物は何かという問いに対する答えの比較がうまくいかないことの主な背景として、アメリカ人と日本人が美をそれぞれどのように捉えているということがあると述べているか。本文中のことばを使って**三十五字程度**で書きなさい。

［解答欄：マス目］

3　西欧世界における美について本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。［ a ］、［ b ］に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、［ a ］は**十二字**、［ b ］は**十一字**で抜き出すこと。

西欧世界には、［ a ］が美を生み出すという考え方があり、例えば古代ギリシャでは、人間の身体における［ b ］についての「カノン」を彫刻作品に実現することによって美を表現している。

a ［解答欄：12マス］

b ［解答欄：11マス］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

4　次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　日本人は遠い昔から、夕焼けの空や古い池といった自然物を美と捉える感覚を養い、それらの中に共通する美の規準を発見しようとしてきた。

イ　芭蕉は、古い池に蛙が飛びこんだその一瞬において、古池や蛙が作り出す緊張感を含んだ世界の中にそれまでにない新しい美を見出した。

ウ　『枕草子』冒頭の段は、それぞれの季節の最も美しい姿を鋭敏な感覚で捉えており、日本人の典型的な美意識を示しているただ一つの例である。

エ　清少納言も現代の日本人も鳥それ自体に美を見出していることから、日本人の感性は千年の時を隔てても変わらずに生き続けているといえる。

ア　イ　ウ　エ

5　日米比較文化論とあるが、比較文化論では、二つの文化を比較する方法を用いて文化を論じます。ある文化を理解するときに他の文化と比較することの利点と問題点とをあげながら、文化を理解するということについてのあなたの考えを、あとの原稿用紙に**三百字以内**で書きなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

300　　　　200　　　　100

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

二〇一七年度　大阪府公立高校入試問題（C問題）

一

解答

1、どう展開するかが不確定であるという状況に身を置く不安（26字）（同意可）　2、ア　3、仕事の秩序は合理性と効率性を基本とし、遊びの秩序はどう気分を昂揚させ興奮の波を作るかという配慮を基本とする。（54字）（同意可）　4、a、日常生活とはちがう華やかさ　b、楽しみを純粋にそれとして追求する

解説

1、「遊びにおける気分の昂揚」は、「遊びがどう展開するかはきわめて不確定だ」という「不確定の状況に身を置く不安」と「自他の創意と工夫によって不確定を確定へともたらす主体性の発現」とがからまり合って生みだされるとしている。「自他の創意と…主体性の発現」が「主体的に遊びの流れを作りだそうとする」ことと対応することをおさえる。

2、「遊びは一回ごとに完結するもの」であり、「いつまでも楽しさが持続することはない」ことをおさえた上で、逆接の接続助詞「が」につながる内容を考える。前に「それでは楽しみが持続しない」と述べていることから、楽しみを持続させたいという考えをおさえる。

3、「仕事の秩序」は「合理性と効率性を基本とする秩序」で、「遊びの秩序」は「どう気分を昂揚させ興奮の波を作るか…どう遊びを楽しくするか」という「配慮」が秩序の基本になっていると述べている。

4、a、「気分が昂揚すると、遊びの世界は…を帯びてくる」と述べ、「それが遊びの楽しさだ」としている。b、遊びは「衣食住という暮らしの土台からはやや浮いたところ」にあるとしながら、「必要や有用性や有益性を逸脱しているからこそ…が可能なのだ」と述べている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二

解答

1、ことわり　2、ウ　3、a、浪　b、散った花（それぞれ同意可）　4、山梨や李などが咲いている（12字）（同意可）

解説

1、「この月は少なき春といふなる」ということを「道理にかなったこと」としていることをおさえる。
2、「香河」という所にいて、「竹の一むら」を越して、「島」を見ている。その島について里人に聞いたところ、「梅が崎」と答えたとしている。
3、「散りにし花と見ゆる浪かな」とあり、「浪」が「散りにし花」に見えると表現されている。
4、「山梨・李などまでも咲きたり」ということから、「この月は少なき春といふなるもことわり」と思っていることをおさえる。

口語訳

今夜は香河とか申す所に泊まる。竹のひとかたまりがあるのを越して、島が近々と見えているのを、この里の者に聞いたところ、梅が崎だという。

立ち返って春が来たのだろうか梅が崎よ、散った花と見える浪であることだ

本当に、この月は小春というのも道理だと思われて、山梨や李までもが咲いている。

三

解答

(1) 厳（しく）　(2) 盛（り）　(3) 保護　(4) 看病　(5) 宇宙

四

解答

1、㋐あきら（め）　㋑きかがく　㋒せいじゃく　2、アメリカ人は実体の美を捉え、日本人は状況の美を捉えているということ。（34字）（同意可）　3、a、客観的な原理に基づく秩序　b、部分と全体との比例関係　4、イ
5、（例）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

ある二つの文化を比較すると、一方がもう一方と違う部分がはっきり見えるので、異なっている点を明確に示せるという利点がある。だが、論じる人の感性や社会的・歴史的な背景が影響するという問題があるため、その差異について、いいとか悪いとか、好きだとか嫌いだとかを、安易に判断するべきではないと考える。異文化に接したとき、自分の文化との違いに驚いたときも、拒否するのではなく、まずそのまま受け入れる姿勢が大切だろう。相手も同じく驚いているかもしれない。文化を理解することは、それを話題としてコミュニケーションをとるうちに、理由がわかって受け入れられるようになったり、相手の国への興味がわいたりすることだと思う。(299字)

解説

2、アメリカ人は『美』はある明確な秩序を持ったもののなかに表現される」という美意識を持ち、「実体物として美を捉える」として、これを「実体の美」と表している。一方、日本人は「どのような場合に美が生まれるか」という「状況」に美を捉えているとして、これを「状況の美」と表している。

3、a、「ある明確な秩序」とされるものをいくつかあげたあとで、「いずれにしても…が美を生み出す」と述べている。b、「カノン」は、「人間の頭部と身長が一対八の比例関係にあるとき最も美しい」とする「ギリシャにおいて成立した美の原理」である。「ある明確な秩序」の一つであることをおさえる。

4、芭蕉は「古い池に蛙が飛びこんだその一瞬」に生じる「緊張感を孕んだ深い静寂の世界」に、「それまでにない新しい美を見出した」と述べている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。